C'est la vie! L'Association franco-japonaise de Gunma

会員の横顔 Profile

●会員プロフィール Vol.21 ●一般社団法人富岡市観光協会　観光地域づくり特任部長　ダミアン・ロブション（Damien ROBUCHON）

日仏合作「富岡製糸場」の世界遺産登録10周年を迎えて

日本に初めて来たのは2010年、パリにあるフランス国立東洋言語文化学院の日本語学部を卒業する直後でした。

猛勉強の末，上智大学大学院の交換留学生として初来日を果たした私は，今度はJETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）を通じて日本で働いてみたいと思うようになりました。応募した2013年は、フランス人の国際交流員を公募していた日本の自治体は7つあり，その中でもっとも魅了的に見えたのは群馬県富岡市でした。幼いころから歴史が大好きだった私は、当時まだ世界遺産候補だった富岡製糸場の歴史に惹かれました。富岡製糸場課配属後に最初に任されたのは、富岡製糸場の黎明期に関するフランス語の文献の調査と和訳でした。

フランス人の指導のもとで設立された富岡製糸場は、日本の近代化をけん引した模範的な工場になった一方で、フランスにとって輸出の第一品目だったシルク製品の原料である良質な生糸の安定供給を可能にした一面もあります。2014年6月、着任して1年ほどが経過し、「富岡製糸場と絹産業遺産群」がユネスコの世界文化遺産に登録されました。富岡市内の小学校の体育館の中で世界遺産委員会の生中継を上映した際、歴史的な朗報をフランス語から日本語へ同時通訳で伝えた喜びと誇りを一生忘れません。その翌年、外務省在リヨン領事事務所が富岡製糸場の世界遺産登録を記念する大型日仏文化事業「SOYEUX DESTINS（絹が結ぶ縁）」を，富岡市の協力を得て、「シルクの街」フランス南東部リヨンで開催しました。

このイベントを機に、リヨンとその周辺地域に点在していた様々な関連施設や自治体が富岡製糸場を中心としたネットワークを構築し，その一番代表的な例としては，富岡製糸場の建設指導を任されたお雇い外国人のポール・ブリュナが生まれたドローム県ブール・ド・ペアージュ市と富岡市との友好都市協定の締結を挙げることができます。また、1871年に富岡製糸場に銅製の繰糸鍋300釜を供給した1854年創業のセルドン銅工場ですが、一時期生きた産業遺産として有名な観光スポットになった後、業績不振のため2010年に閉鎖を疑義なくされましたが、「SOYEUX DESTINS」の企画展を契機に地元アン県の県議会に注目され、大規模な保存整備工事を経て2022年に最新のデジタル技術を駆使した博物館としてリニューアルオープンしました。

2020年、一般社団法人富岡市観光協会に入社し、「フランス文化」「工女さん」「富岡シルク」「レトロ空間」といういわゆる富岡製糸場が育んだ文化にちなんだ様々な観光体験コンテンツの開発に携わるようになりました。フランス人として持ち前の広い視野と発想力を活かし、まずは富岡市が長年悩んでいたグルメ不足の課題を解決すべく、富岡を「クレープの街」にしようと、「富岡クレープ」という新名物の開発と普及に力を入れました。①クレープ発祥国のフランスと富岡市の歴史的つながり②群馬県で普及する粉食文化との関係性③富岡市の絹文化を連想させる「シルクのようになめらかな食感」の生地と「クレープ」の語源などといった特徴に着目し、高崎市の「高崎パスタ」のように富岡を象徴する新しいご当地グルメとして育てているところです。

そして、富岡製糸場の見学で終りがちな富岡観光体験の更なる充実化を図ろうと、フランス発祥の国民的球技として公園など一定の広さがある場所で子供から高齢者まで気軽のある「ペタンク」のレンタルサービスを始めました。「ペタンク」は目標球により近く位置させるように決まった位置から鉄の球を投げ合う球技です。富岡にお越しの際、「ペタンク」や「富岡クレープ」などフランスの風を感じることのできる体験を是非、お試しください。

協会レポート Report

●Vol.21 ●事務局長　鈴木数成

在日フランス商工会議所群馬デスク開設

在日フランス商工会議所（東京都中央区）が、県庁３２階官民共創スペースNETSUGENに群馬デスクを設置することとなり、5月9日(木)に開所発表セレモニーが開催されました。セレモニーには、群馬県知事　山本一太氏と在日フランス商工会議所会頭　ジェローム・シュシャン氏（現ゴディバジャパン株式会社代表取締役社長）が登壇し、多くの群馬日仏協会関係者、群馬県経済界の方々多くのメディアの方々が集まり開催されました。在日商工会議所で最大級の会員を抱えるフランス商工会議所が、地方オフィスを設置するのは、地方中核都市では、群馬が全国初となります。

今回のセレモニーでは、在日フランス商工会議所と群馬県が覚書を締結するほか、ビジネス交流会が実施されました。実は昨年7月に、群馬日仏協会と在日フランス商工会議所と協力をしながら、群馬県で何か出来ないだろうかということで、協会の副会長でもある在日フランス商工会議所前会頭である、B.デルマス氏との協議の中で日本橋のデスクで協議したことが切っ掛けとなり、昨年暮れに、在日フランス商工会議所主催のビジネスサミットで、群馬県知事が講演をしたことで更に急接近。再び、群馬日仏協会、群馬経済同友会、群馬県、フランス商工会議所との協議打ち合わせの結果、商工会議所が考えていた群馬デスクを群馬のいずれかの場所に設置するという計画に、群馬県が応えてくれたといういきさつがあります。

ほぼ約10か月前の構想が、見事な短時間で実現する非常に稀なケースとなりました。

群馬はフランスと最も古い歴史的関係を持つ地域であること。そして2番目に、群馬日仏協会の存在があり、非常にアクティブで多くの事業を成功させてきていること。3番目に、ミシュラン本社やダノン工場他、フランスを代表する企業が群馬にあり、また関係があり、東京からのアクセスが非常にいいことが今回の群馬デスク設置の決め手になったとシュシャン会頭が挨拶で話していました。

会員レポート

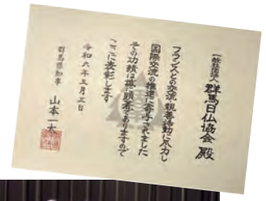
●Vol.21 ●専務理事　梅津宏規

令和６年度群馬県総合表彰受賞

一般社団法人群馬日仏協会は、国際交流部門で初めて令和6年度群馬県総合表彰を受賞しました。

2009年12月5日に前橋の臨江閣でフランス大使館公使及び参事官、日仏会館専務理事、群馬県副知事及び県内市長関係各所の方々のご参列と共に、設立総会を開催以来、各方面の多くの方々にご指導、ご理解、ご協力頂き、そして多くのフランス好きの法人、個人会員の方々に支えられてきました。設立後にフランスとの歴史的関係のある富岡製糸場と絹産業遺産群が世界遺産登録されたこと。前橋市がミシュラン都市国際ネットワークに加盟したこと。ミシュランタイヤが主導し実現した３Ｄメタルプリントの世界的アジアの開発拠点として群馬積層造形プラットフォームが設立されたこと。群馬県庁32階ETSUGENに在日フランス商工会議所群馬デスクが開設されることなど、多くの実現に向けて、関係各位には多くのご支援ご協力を頂きましたこと心より感謝申し上げます。

また今後更に皆様にとって群馬県にとって、かけがえのない協会となるよう皆様の変わらぬご支援ご協力をお願い致します。



●法人会員プロフィール Vol.21

※順不同

(社労)板垣労務管理事務所

昭和37年に前橋で創業し、60年以上この地で開業する地域を代表する労務管理コンサルタント会社です。群馬県にて社会保険・労働保険の事務手続代行、就業規則、労務管理、年金の適用等、きめ細やかな対応で信頼と実績を得る事務所です。労使トラブルや賃金、退職金、人事考課、雇用、福利厚生、人材教育など様々な事案に対応しています。

商工会議所や様々な専門誌でも、労務に関する内容を執筆されたり、社会保険・労働保険などについての講演を通して、なかなか知りえない様々な情報や疑問に対して相談に応じ、社会貢献を積極的に行う事務所です。また雇用助成金の受給診断・申請等も行っており、気軽に相談できます。

371-0801 群馬県前橋市文京町２丁目 9-19
TEL：027-260-8111
URL：http://www.itagaki-r.co.jp/

富士情報通信株式会社

富士オートグループ企業の一つで、主にNTTドコモショップを県内で最初に展開した会社です。

富士オートグループには、自動車のSUBARUの正規ディーラーでは日本最大規模である富士スバル㈱やJeepのBYDで群馬唯一の正規ディーラーである富士ジーワイ商事㈱、自動車のレンタル・リースなどを手掛ける富士レンタ・リース。オフィス環境を創造するビジネスソリューションを手掛けるシャープドキュメントシステムの正規代理店のシャープドキュメント富士㈱、ポルシェ、ヴォルボ、フィアット、マセラッティ、アルファロメオ、アバスト各社の輸入車正規ディーラーでイタリアンレストラン・チェントを運営するユーロプレッツアなどで構成される会社です。

〒371-0023 群馬県前橋市本町２丁目 11-2
TEL：027-220-5055
URL：http://www.fjt.co.jp/

ヒュッテハヤシ

ヒュッテハヤシは、昭和初期から続く赤城山の麓にある、林牧場で飼育されるブランド豚を、牧場直営の農家レストランとして開設した「とんとん広場」においてハム・ソーセージの加工販売を開始し、ハム・ソーセージの本場・ドイツで開催される世界最高峰のコンテストIFFAにおいて6品が金銀銅賞を受賞するなど実績を上げ、本場で修行を重ねた職人が、選び抜かれた林牧場のブランド豚「福豚」が織り成す国産プレミアム生ハムブランドHütte Hayashiが４年前に誕生しました。

近年では、ドイツに隣接するフランス・アルザス地方のソーセージやパテなど、幅広く生産をし、NHKをはじめ様々な民放TV番組などにも取り上げられ、大変注目される会社です。

〒371-0247 群馬県前橋市三夜沢町 534
TEL：027-283-2983
URL：https://www.hutte-hayashi.com/

ヴァンダラスト

太田の地で、40年以上マイピアという名で、地元で親しまれてきたパン屋さんが、2018年秋にWANDERLUST(ヴァンダラスト)と改名して開業しました。ヴァンダラストとは放浪癖とか旅したいな～とかいう意味ですが、開放的な建物の空間とその前に広がる公園のような空間で、パンやカフェを楽しめるパン屋さんです。

オーナーは、ドイツで開催されたパンの世界大会「iba cup」で日本代表にもなった実力派。民放テレビや様々な雑誌にも登場し、話題性の高い美味しいパンを求める方やゆっくりとその空間を堪能する方、かつて店舗内で開催してきた音楽ライブや落語など様々なイベントを通して、その場で学びや体験をしてみたいなど、色々な人の可能性探しが集うパン屋さんです。

〒373-0033 群馬県太田市西本町５-30
TEL：0276-22-2200
URL：https://wdlst1976.com/

Vol.21 キクちゃんカフェ フランス日記

マチスが大好き♥

皆さんこんにちは。パリのキクちゃんです。今回は、夏のバカンスで訪れた、ニースのマチス美術館をご紹介します。

マチスは、北フランスに生まれ、パリで絵画を学び、48歳のときに南仏ニースに移り住みました。それ以来、生涯、ニースやニース近くの村ヴァンスで暮らしました。

美術館は、ニース一番の高級住宅街シミエ地区の、古代の円形劇場とオリーブの木が茂る公園の中にあります。

この美術館は、マチスの自宅を美術館にしたもので、佇まいがとても美しいのもうれしい。マチスの絵画、デッサン、彫刻、マチスの愛用品などを観ることができます。
私は、マチス美術館、大好きです。おすすめです。

マチス美術館の隣には、シミエ修道院があります。清らかな空気が流れる、美しい場所です。修道士たちが育てるバラが有名で、ニースの恋人たちが必ず訪れる愛のパワースポットです。

マチス美術館のあるシミエ地区は、長くつづく上り坂です。バスが便利です。近くには、これまた有名な、シャガール美術館もあります。芸術の日として、シャガールとマチスを堪能するのも、すばらしいですね。

ニースマチス美術館
火休　入館料大人12ユーロ
バス５　アレーナ・ミュゼマチス下車

岩岡基久乃（いわおかきくの）
2000年からフランス在住の日本人。
南仏アンティーブ市を経て、現在パリ 17 区在住。
元大手電気メーカー勤務のキャリアウーマン。
好きなものはシャンパーニュ、くまのぬいぐるみ。
針灸師の夫とフランス全土を行脚するさすらいの
癒し系チャレンジャー。